

第4日

令和3年12月3日（金）

午前10時零分開議

○議長（半田雄三君） これより本日の会議を開きます。

なお、本日の出席議員は17名で、会議は成立いたします。

本日の議事日程については、お手元のタブレットに掲載のとおりであります。御了承願います。

日程に従い、一般質問を行います。

質問通告者及び順位は、お手元のタブレットに掲載のとおりであります。申合せにより、1人当たりの質問時間は答弁時間を含めて60分以内となっております。御了承願います。

それでは、最初に14番梶原康嗣議員の質問を許可します。14番梶原康嗣議員。

（14番梶原康嗣君登壇）

○14番（梶原康嗣君） 本日は、温泉地「原鶴」に特化いたしましたところの一般質問をするようにしております。

また、非常に寒い中、小雨の中に傍聴者の方々がいっぱい来ておられます。本当に私もびっくりいたしておりますし、緊張もいたしております。本当、原鶴温泉は何とかしてくれというようなことでの傍聴者の数ではないかな、私自身思っておりますので、緊張感を持って一生懸命質問をさせていただきます。どうかよろしくお願いを申し上げます。

（14番梶原康嗣君降壇）

○議長（半田雄三君） 14番梶原議員。

○14番（梶原康嗣君） 温泉地「原鶴」の現状と今後の展開を問うということで一般質問いたしますが、まず冒頭に副市長にお尋ねをしたいと思っております。

原鶴温泉を今までどのように思ってきておられたのか、また原鶴には鵜飼いがありますが、鵜飼いをどのように感じられていたのかをまず問いたいと思っております。

○議長（半田雄三君） 副市長。

○副市長（右田博也君） 原鶴温泉につきましては、旅館の規模、それから県内随一のお湯の湧出量、泉質も含めまして、県内でも代表する温泉地だと思っております。

また、朝倉市の中でも、秋月、三連水車、それから山田堰などと同様に、朝倉市の観光を牽引する重要な観光資源であると考えております。

また、鵜飼い漁につきましては、県内でも朝倉市だけ、それから九州でも隣の日田市、2か所ということで、大変希少性があるものだと考えております。

文献等によりますと、江戸時代まで遡ることができるということで、300年以上続く伝統漁法ということでございます。こちらも原鶴温泉の魅力的な観光資源であると考えておりますし、朝倉市としましても、絶やすことなく、将来に向けて継承していかなければならないものであるというふうに考えております。

○議長（半田雄三君） 14番梶原議員。

○14番（梶原康嗣君） ありがとうございます。まさしく副市長の言うとおりに、原鶴温泉は県下一の湧出量が自慢であります。

そういった中で、ジャングル風呂、洞窟風呂、展望風呂または家族風呂などなど、様々な趣向を凝らした家族風呂で楽しんでもらっております。

平成2年度の数字では約40万人の方が原鶴温泉を拠点に宿泊し、旅館も当時は28軒ありましたが、しかし現在は、旅館数は12軒に減少しております。宿泊者数もコロナ禍のため、今では15万人まで減少しているそうでございます。

また、原鶴の鵜飼いは、夜の筑後川に浮かぶ夏の風物詩であり、小さな明かりに照らされ、鵜たちが川の中に潜り、顔を出しては、慌ただしくアユを飲み込む幻想的な光景が見られます。

毎年5月の20日にアユ漁解禁から10月末まで、筑後川での鵜飼いが見られます。原鶴の鵜飼いは太古より行われていたと言われていますが、長良川のように、朝廷など手厚い保護を受けて今日まで続けられてきたものとは異なり、ささやかな生活の手段として受け継がれてきたものだと思います。鵜飼いは全国で11か所、原鶴では3軒の鵜匠さんがいましたが、現在は2軒だけになっております。

そういった中で、原鶴の鵜飼いの存続が危ぶまれております。新聞等々でも、原鶴の鵜飼いの危機ということで大きく出ておりましたし、また温泉地「原鶴」では3回の豪雨災害で大きなダメージを伴い、昨年10月、国のGoToキャンペーンでやっと右肩上がりになるかとおった矢先に、またコロナ禍で落ち込んでしまいました。

特に、今年の5月の連休の一番旅館の稼ぎ日というときには、全館が休業されたということで、このままいけば旅館はやっていけないところまで落ち込んだそうでございます。

1月1日から10月31日までの10か月間、国、県の緊急事態宣言の期間が128日、まん延防止等重点措置の期間が39日、福岡県が独自に発令しました福岡県コロナ警報の期間が31日、これらを合計すると、実に198日となり、実に10か月間のうち3分の2に当たる期間について、外出禁止など行動が制約され、旅館は全て休業に追い込まれました。

鵜飼いや土砂等の堆積、河川環境の悪化でアユの不漁、屋形船も同様に、陸につながれたまんま、運航できない状況にあります。

そういった中で、原鶴の鵜飼いの存続を打開するには、個々の鵜匠さん、または旅館組合、または船頭さんでは限界があるということで、市の支援策として何かないかというようなことで質問をさせていただきます。よろしく願い申し上げます。

○議長（半田雄三君） 農林商工部長。

○農林商工部長（武内政喜君） 鵜飼いや漁に対しての支援ということですが、鵜飼いや漁に対する支援策としましては鵜匠のほか、朝倉市やうきは市、原鶴温泉旅館組合、筑後川温

泉旅館組合等を組織します筑後川鵜飼伝統漁法保存協議会を平成11年12月に発足させ、朝倉市、うきは市がこの協議会を通じて補助金等の支出をしております。

具体的には、鵜匠に対し、出漁経費の一部としまして餌代への助成、それぞれ年間約100万円を実績に基づき支出をしております。

また、ウミウ捕獲技術保存協議会負担金約20万円、それとその他の鵜の購入費も含めまして、令和3年度につきましては約260万円を支出予定となっております。以上です。

○議長（半田雄三君） 14番梶原議員。

○14番（梶原康嗣君） ありがとうございます。朝倉市の鵜飼いの補助金と申しますか、支援金は餌代程度の総額で申しますと、朝倉市が170万円、うきは市が50万円の大体220万円ぐらいが鵜飼いの餌代として支援しているんだらうと、このように思っておりますが、私は何も、補助金を増やせと言いたいと申しますが、全国どこでも後継者が不足しておる。船頭さんもおらんという中で、議会事務局を通じまして、いろんな資料を取り寄せていただきました。

長良川は宮内庁の管轄ということで、国家特別公務員ということで1億1,000万円以上の補助金が出ておりますが、これは例外。しかしながら、広島県の三次市、それから山口県の岩国市等々も鵜飼いがありますが、そこら辺りは1,000万円を超すような市からの補助も行われておると申すことでもありますし、近くの大分県の日田市がありますが、そこは観光をなりわいとした鵜飼いでありまして、市からは300万円が補助をされておると申すようなことでもありますので、ぜひともそこら辺あたりも部長、頭の中に入れておいてもらえたらありがたいかと、かように思っておりますし、それから2年間鵜飼い、それから屋形船もおかにならなくなったまんま仕事ができない現状であります。これが来年、早速来年の話になりますが、鵜飼いができるのかなと、僕は強く果たしてできるのかな、そんなふうに懸念をしております。

なぜかという、部長も御存じのとおり、うちは九州北部豪雨で、土砂に当たっては東京ドーム10杯分の土砂が流出したということで、現在も工事がなされておりますが、それもまだまだ道半ば、今後大雨等々、また工事等々によっては土砂の流出が考えられるということで、筑後川もなかなか魚の住めるような河川環境になっていないということですが、部長どんなふうでしょうか、来年鵜飼いが部長はできると思われませんか、どうですか。

○議長（半田雄三君） 農林商工部長。

○農林商工部長（武内政喜君） 今、議員も言われるとおり、鵜飼い漁につきましては、筑後川の再生が不可欠だと、市のほうも考えております。

それで、それを目指して頑張っているところです。具体的には筑後川の再生につきましては、鵜飼い漁の存続と継承には、先ほども言いましたが、不可欠ということで考えております。今後も関係各所と連携を深めながら、鵜飼い漁の再開に向けて努力をしていきたいと考えております。以上です。

○議長（半田雄三君） 14番梶原議員。

○14番（梶原康嗣君） ありがとうございます。それと同時に、私は、屋形船といいますが、船頭さんも全国9か所ぐらいと思いますが、なかなか後継者がおらんと、船頭さん不足であるというようなことですが、朝倉市の船頭さんも、今日も傍聴に見えられておると思いますが、そういったことで、おかの上に上がったまんま屋形船が筑後川に降ろせない、災害があったときには自費で有明海まで壊れた舟を持ち運んで帰ってこにゃいかんと、またしかし、それと同時に、僕は、初めて聞きましたが、その屋形船にだけ、国、県が何か係留代を払わないかんとということで、僕は鶴匠、川をなりわいに生活している方は舟を持っておりませんが、その方々には係留代がない。

しかしながら、屋形船といつか、そういった方には、国、県は係留代を徴収するというようなことですが、そういったところは市の管轄の部長に聞いても分からない部分があるかと思いますが、そういったことを大事にしながら、今後そういった係留費等々も含めて何がしか支援金は出されんとじゃろうかというようなことですが、それと同時に、やっぱり原鶴温泉も船頭さん不足で、何とかしてくださいと、後継者はおらんとというようなことで、僕は、市の特集の記事を広報紙等々に上げながら、船頭さんの募集を図っていただきたならばいいんじゃないかなと思っておりますが、そこら辺のところは部長どんなふうにご考えておられますかね。

○議長（半田雄三君） 農林商工部長。

○農林商工部長（武内政喜君） 今、議員の御指摘のとおり、船頭につきましては、現在、五、六名と聞いております。もう既に70歳以上の方が大部分ということで、40代の方が1名ということですが、後継者不足の状況ということで認識をしております。

特に、鶴匠、船頭さんの後継者育成につきましては、鶴飼い漁の存続等に関わる重要な問題ですので、今現在、鶴匠さん、船頭さんのほか、地域、あとは原鶴温泉旅館組合等と屋形船の維持管理費等も含めて、今協議を行っているところです。

その中で、できるだけいい方法があれば対応していきたいということで、今協議を進めておりますので、よろしく御理解いただきたいと思っております。

○議長（半田雄三君） 14番梶原議員。

○14番（梶原康嗣君） ありがとうございます。今後ともよろしくお願ひ申し上げたいと思っておりますが、それと同時に、アユの稚魚を放流するんですが、朝倉市が何万匹放流しておるか分かりませんが、しかしながら、筑後川河川環境の悪化でなかなかアユが育たんと、5センチから10センチぐらいのアユを放流しておりますが、これは市長も漁業組合員ということも聞いておりますが、そういった中で、稚魚も小さいときには群れをなす、その群れもほとんどウナギが食べたり、ナマズが食べたり、シラサギが食べたり、特にカワウの被害が大きいというようなことですが、筑後川を通るたんに、オレンジのチョッキを来た猟友会の人たちが時々巡回をしておるといふこともこの目で見らせていただきました。

が、なかなか最近では、少しは少ないようですが、数年前までは100羽、150羽、そういったカワウが群れをなして魚を食べに来るといようなことで、そういったカワウ被害が大変なんだといようなこともお聞きしておりますが、隣の県ばかり言いますが、日田市では、そういったカワウ対策を開きながら、1羽に対して5,000円の補助をしておると、しかしながら、それは写真つきでないとは駄目ですよといようなことですが、朝倉市としても、イノシシとか鹿の被害には補助金が出ますが、そういったカワウの被害にはそういった補助金等々はないんじゃないかなと思っておりますが、そこら辺は部長、どんなふうに関後対策として考えてもらえますかね。

○議長（半田雄三君） 農林商工部長。

○農林商工部長（武内政喜君） 駆除の補助金の状況について、まず説明をしたいと思ます。

朝倉市では、国から1羽につき200円の駆除費が朝倉市有害鳥獣駆除対策協議会を通じて駆除をされた方に支給をされるようになっております。これは狩猟期間等も含めてですけど、ですから狩猟期間以外であれば、例えばうちのほうが獵友会なり、そういう協議会に委託する場合がありますので、その場合は日当が3,000円とか出ますので、その辺が、日田市がどうなっているか分からないので、そういう手当を含めると、一定額の支出はしているという認識なんですけど、この200円というのは鳥、ヒヨドリとか、カラス等も一応200円ということになっております。

また、別に筑後川の漁業協同組合でも、筑後川でカワウを駆除した場合のみ1羽につき2,000円を何か助成をしているということ聞いております。

実績で言いますと、市のほうはないんですが、漁業組合のほうでは、令和2年に42羽、令和元年に24羽ということ聞いております。これは組合の方に狩猟免許を持っている方がおられたということ、その方が何か対応してあったということ。以上です。

○議長（半田雄三君） 14番梶原議員。

○14番（梶原康嗣君） 部長、今度ころっと変わりました、原鶴温泉のことをお聞きしますが、そういった緊急事態宣言の中、またコロナ禍の中に温泉地は逼迫しとるといことで言わせていただきましたが、ようやくここに来て緊急事態宣言が解除され、県の避密の旅、それから朝倉市独自の近泊ノススメ、そういった支援事業をしながら、最近ではおのおの旅館が満室だということも聞いております。

私も大変喜ばしいことではないかな、非常に喜んでおるところでございますが、近泊ノススメも12月の31日をもって終了と、県の避密の旅は来年も続くといようなことですが、そういった中で、本当にそういった支援策ありがたいなといようなことですが、うちの近泊ノススメが、第1次が52%の利用率しかなかったと、早速第2次の近泊ノススメを開始したといようなことですが、現在、その利用率はどんなふうになっておるかをお尋ねしたいと思ます。

○議長（半田雄三君） 農林商工部長。

○農林商工部長（武内政喜君） まず、市の助成事業の概要について簡単に実績を説明したいと思います。

令和2年9月から令和3年6月まで実施した事業としては、あさくら泊覧会事業があります。実績としましては、令和2年度が9月から3月の7か月間で8,200泊です。令和3年度の4月から6月の3か月で約2,300泊ということで、合計で1万500泊の利用となっております。

次に、議員言われました近泊ノススメ事業があります。これは令和3年9月から12月末までの事業となっております。当初は、この事業は市内在住者等に限定した事業でしたが、本年9月に緊急事態宣言が解除されたことを受けまして、対象を市外にまで拡大をし、追加販売を行っております。

第1次販売、これが、額面1万円が約1,300冊、追加販売に係ります2次販売で約1,250冊ということで、合計で2,550冊販売しております。予算額に対しますと、85.3%ということで、今の現状でなっております。以上です。よろしくお願ひします。

○議長（半田雄三君） 14番梶原議員。

○14番（梶原康嗣君） ありがとうございます。そういったことで、本当に旅館にとってみれば、そういった支援事業が非常にありがたいということでございますので、本当に私自身もありがたく思っておるなというようなところでございます。

今後ともよろしくお願ひを申し上げますと同時に、今日は生涯学習課にも来てもらっております。何でもかといいますと、鶺鴒の存続が危ぶまれる中で、本当にそういった地域の伝統文化、そういった文化芸能、そういったものが消滅しようとしております。

昨日は、杷木地域で、二大奇祭でありましたおしろい祭りがあったということで、ニュース等々でも流れておりました。

もう一方、片や穂坂地域には泥打祭りというような奇祭がありますが、しかしながら、そこには40件ぐらいの住民の方々が集まって、くじ引で代宮司を決めると、真っ白の装束を着ながら、小学生が10人ぐらいだったと思いますが、氏子と言ひまして、その神殿で練り込んだ泥を投げて、その泥のつき具合によって豊作が決まるというような珍しい祭りですが、それが少子化、それから高齢化に伴って祭事だけになったと、そういった行事がなくなったということで、本当に地元の私は、議員としてがっかりもしましたし、何とかならんやっただすかいというようなことでございます。

県の無形民俗文化財ということにもなっておりますし、そういったことで、その区長さんが来て、取りやめたもんなど、祭事だけにしたということで、それは惜しかったなど、何とかならんとかいとは言ったものの、一議員が地域で決まったことに口出しをするわけにはいかんということで、それは生涯学習課に行つて、そこ辺のところの事情説明を十分しなさいということでしたが、どんなふうな説明をしながらオーケーを出したのか、お聞

きしたいと思います。

○議長（半田雄三君） 教育部長。

○教育部長（池田篤二君） 議員がおっしゃいますように、杷木穂坂地区に伝わる泥打祭りは、昭和51年に福岡県の無形民俗文化財に指定された神殿を泥で祝う祭りでございます。

2年前からは、お下りでの泥打は取りやめられ、簡素化されております。このことについては、地区で決定された後に市へ情報が入ったため、すぐに担当者のほうが地区の代表者と面談し、泥打の継続を打診したところでございますが、議員がおっしゃいますように、高齢化や子どもの減少が原因であるため、継続は困難であるとの回答でございました。

泥打の役割を担う子どもの減少による休止でありますけれども、貴重な行事であることから、再開が可能な状況になったときのためにも、祭りの記録については散逸しないようにお願いしているところでです。

また、泥打の復活についても、継続して依頼しているところでございます。以上です。

○議長（半田雄三君） 14番梶原議員。

○14番（梶原康嗣君） 今までずっと原鶴温泉、それから鶺鴒飼い、特に鶺鴒飼いの存続、船頭さんのことも尋ねてまいりましたが、そういったことで、これは課長も時々会議に出席しておられますが、県の中央会等々でいろんな支援事業があるんだということでもありますので、そういった県等々の支援事業を勉強していただきながら、それに当てはまるような支援策があるとするば、今後ともお願いしたいなということでもあります。

次に移りたいと思いますが、次は、原鶴地区内における排水処理ということで、原鶴調整池のポンプ・オペレーションについてということを議題に上げておりますが、本当にある事業所においては3回も続けて厨房、それから大広間等々が浸水し、休業もされたということで、災害たんびに大きな被害があつとるというようなことですが、私も何度となく現場に行きながら、市長も九州豪雨のときには防災服まで着ていただいて、早速駆けつけていただいて、これは何とかせないかなというようなことで、広島県にあった国土交通省のポンプ車を手配していただきまして、使用はしなかったんですが、そこにずっと常駐していただいたということで、その区民の方々、温泉地の方々も安心して眠れたというようなことも聞き及んでおりますが、森田市長時代にその調整池も拡張しながら、これならば大丈夫じゃろうばいというようなことでしたが、しかしながら、昨今の大雨で、その調整池もままならん。

フェンスがずっと周りに囲んでありますが、調整池から80センチ以上に、その調整池に水があふれたということですが、私は素人ですが、発電機でポンプアップしておりますが、その発電機の出力が弱いんじゃないかなろうか、出す水が全然違うんじゃないかなろうか、そのようなことも素人ながらに思っておりますが、原因は何があると思われまじょうか、質問いたします。

○議長（半田雄三君） 都市建設部長。

○都市建設部長（山南哲也君） 原鶴地区におきます浸水問題について、市の基本認識を申し上げます。

議員が御指摘されておられます地区内の内水による浸水被害であります。これは複雑な水路構造も起因しておりまして、排水機能が低いということがございます。

その対策として、平成28年度に調整池を整備いたしました。調整池の排水につきましては、地域の要望を受けまして、今年度機能向上を図るために、調整池入り口部の改造と、それから既存ポンプの設置場所を移設いたしております。

内水対策につきましては状況を見ながら、ポンプの増強など、さらなる対策の検討が必要であるというふうに考えております。併せて調整池周辺の水路の状況を調査いたしまして、現状の通水断面を大きくすることも必要だと把握をしております。

また、令和2年には、浸水被害に緊急的に対応するために国土交通省に排水ポンプ車の出動を要請しまして、ポンプ車が排水体制を整えたところでございます。

市としては、今後とも浸水被害が想定されるような豪雨時に機能的に対応できるポンプ車の出動を国交省に要請してまいります。

○議長（半田雄三君） 14番梶原議員。

○14番（梶原康嗣君） 部長、私は、ありがたいことが1点だけありました。言うのを忘れておりました。今年早速、6月でしたか、豪雨、それから大雨を想定いたしまして、3回も原鶴温泉には水がつかったばいと、こういったことは恥ずかしいとじゃないかなということで、建設課に何とか来てくれんねということをお願いしたら、本当に部長、課長、それから係長、それから担当の職員、4人の方が来ていただいて、旅館組合の役員の方々と話してされることから、何とかしましょうかということで、早速小さな作業等々もしていただきました。

本当にありがたかった、そういったことも付け述べさせていただきたいと、かように思っておりますので、今後発電機等々の出力アップを図って、側溝も狭い部分がありますので、側溝等々も広げていただいて、大雨、豪雨のときには温泉地の方々、特にお客さんをはじめ、旅館の経営人の方々が安心して仕事がされる、安心して泊められるというような体制強化に持っていかれていただければありがたいな、かように思っておりますので、今後ともよろしくをお願いをしたいということでもあります。

次に入らせていただきます。

次は、川の駅周辺のパークゴルフ場及び旧ハーブ公園を今後どのように活用していくのか、新しい取組も計画していると聞くという質問ですが、川の駅舎は杷木町時代に杷木町が3駅構想ということで、平成9年に福岡県第1号道の駅「原鶴」が開設され、同時にファームステーションバサロがオープンをいたしました。

平成11年には大手山2000年農業公園が完成し、翌年の平成12年、川の駅原鶴駅舎並びにパークゴルフ場が完成をいたしました。3駅構想によって、都市圏からの交流人口及び原



鶴温泉の活性化に役立てようといいたしました。

それと同時に、今日も傍聴に見えられておりますが、湯里おこし会の皆様方が本当にハーブ公園、ハーブ祭り等々も開きながら、原鶴を元気にしていこうというようなことで、長年取り組んでいただきました。

本当にありがたく思っておりますが、しかしながら、ハーブ公園も今は存続ができないというような状況下の中に追い込まれながら、パークゴルフ場も災害があるたびに朝倉市は多額の投資をしながらか、何とかやっけていこうということで頑張ってもらいましたが、今まで平成24年の九州北部豪雨、平成29年九州北部豪雨、西日本豪雨、九州豪雨等々で、パークゴルフ場に投資した金額は合計でいいですが、おおよそどのくらいぐらい投資をいたしましたか、お尋ねしたいと思います。

○議長（半田雄三君） 農林商工部長。

○農林商工部長（武内政喜君） パークゴルフ場の復旧工事に要した経費ということですが、一応平成29年の7月、九州北部豪雨からになりますか、平成29年度が堆積土砂撤去工事費としまして424万円、平成30年度は再度土砂が堆積したことから復旧工事ができませんでしたので、国土交通省筑後川河川事務所に依頼をしまして、堆積土砂の撤去のみをしていただいております。

このため、工事は測量のみで50万円とCコースのみ再開するための備品購入代が60万円の計110万円、令和元年度も再度土砂が堆積をしましたため、前年度分の復旧工事を含めまして、工事費が約1,570万円、備品購入代が80万円の計1,650万円、令和2年度につきましては、芝の養生やコロナ禍により再開を延期している間に、また被災をしましたので、現状は使用できなくなり、そのままというような状況になっております。復旧費の合計は、平成29年から令和元年度までで約2,184万円となっております。以上です。

○議長（半田雄三君） 14番梶原議員。

○14番（梶原康嗣君） ありがとうございます。私は、何でそういったことをお尋ねしたかと申しますと、パークゴルフ場は未曾有の災害が多くなったということで、河川敷にそういったものを設けるといふことには困難を来すというようなことだろうと思っております。

しかしながら、新しい計画も聞くというようなことでありますが、部長どういった計画があるのか、まずもって新しい計画等の考えがあれば、そういった構想があればお聞きしたいなということです。

○議長（半田雄三君） 農林商工部長。

○農林商工部長（武内政喜君） 先ほどもちょっと説明をいたしましたか、川の駅パークゴルフ場につきましては河川敷に設置したこともあって、10年に一度程度の水位上昇による被災は想定をしておりましたが、平成29年以降は毎年のように洪水に見舞われているような状況です。

このため、市としても度重なる被災による再開については、その都度復旧費を投入する

ことがなかなか困難であると考えております。

ですので、今、具体的にはっきりこれをしますよというところまではいっていないんですが、全ての選択肢を考えて、例えばA、B、C、3コース全廃、廃止せないかんのか、また縮小して、一部でも開通できるのかとか、そういうようなところを今、関係者を含めて協議を行っているところです。そういうのが固まれば、また地元と協議を進めながら、可能なものから対応ができたらということと考えております。以上です。

○議長（半田雄三君） 14番梶原議員。

○14番（梶原康嗣君） 部長の答弁はそうだろうと思いますが、しかしながら、今後は川の駅舎を拠点といたしまして、例えばオートキャンプ場を開設するとか、筑後川で川遊びをしてもらおうということで、私は、平仮名しか読めませんが、何かSUPとかカヤックとか、そういったものも川遊びの中で今後取り入れていこうというような計画もあるというようなこともお聞きしておりますが、パークゴルフ場には、今日も傍聴に多分お見えになっておると思いますが、名前は言わせていただきますが、林さんという大先輩がずっと草を乗用管理機で毎日毎日、草切りから何からしながらパークゴルフ場を存続されたということで、本当に林大先輩にはありがたいな、今も思っておるところでもありますし、私も70歳を過ぎまして老人クラブに入会をいたしております。

実を言いますと、杷木には杷老連というような老人クラブの組織がありますし、旧杷木地域には昭和クラブ、それから私は、その下の上池田というところに住んでおりますが、3つのパークゴルフ場の大会がありました。

それも筑後川温泉パークゴルフ場、そういったことで、それは強うならないかんということで、8回ぐらい練習もさせていただきましたが、練習をしよると、その3分の1は、ほとんどの方が杷木の方、老人の方々が年間3,000円の年会費を払いながら、当日は100円で朝から晩まで遊ばれると言うたらいかんが、健康の場としてパークゴルフをするというようなことでもありますし、地元の方々と会うたんに、梶原君、大体原鶴のパークゴルフ場はどげんなちよるとやろうかと、何で筑後のほうへ行ってパークゴルフをせないかんとね、原鶴でもできるとじゃないかというようなことの強いお叱りを何度となく私は受けましたが、しかしながら、原鶴のパークゴルフ場は公認コースということで、全国大会もできるような公認コースでもありましたので、なかなか勝手なことはでけんということでありますが、私は、公認コースは取り外していただいて、若者、それから年寄りの方々が原鶴の駅舎を中心にしながら、融合できるような憩いの場にしていただいたならばありがたいな、かように思っておりますし、また杷木地域はゲートボール場が非常にいまだかつて盛んです。

グラウンドゴルフよりもゲートボールということで、これは佐々木議員さんの南側には日出コートというて、ゲートボールが6面ぐらい河川敷にありましたが、それも豪雨のためにゲートボール場は、杷木からは消えてしまいました。

どこで、じゃゲートボールの大会をしよるかといいますと、筑後川温泉のある旅館に屋内のゲートボール場があるということで、そこで杷木の方々は試合を行っておると、パークゴルフ場もゲートボール場も、みんな筑後川温泉、そういったことで、本当に僕は情けないな、そのように思っておりますし、何とか、先ほども言いますように、若者、それからお年寄りの方々が1日元気のある、笑い声のできるような川の駅舎を拠点にしながら、融合施設を設けていただきたい。

公認コースとは言いませんが、何とか上流のほうにも、ハーブでもいいですから、そういったお年寄りの憩いの場はできんものか、再度お尋ねをいたしたい、そのように思います。

○議長（半田雄三君） 農林商工部長。

○農林商工部長（武内政喜君） 今、議員が言われたとおり、市のほうもいろんな関係者の方の意見を聞きながら協議を進めているところですが、先ほども言われたとおり、筑後川であれば、最近ではSUPとか、カヤックとか、ウオーターサイクルとか、そういう体験もできるようになっております。

また、先ほど議員が言われたように、オートキャンプとか、そげなのをしたらどうやろうとか、そういう意見も協議会というか、会議の中では意見がいろいろ出ております。

それで、今、市としても、先ほど言ったハーブ公園も含めて、川の駅「原鶴」に隣接しておりますので、パークゴルフ場と一体として、今後の有効活用について、どういう方策があるかということは今検討を行っているところです。

その中で、いろんな意見が出るかと思っておりますので、そういうのを参考にしながら、できるものから対応していきたいと思っておりますけど、今の時点で、はっきりこれというところまではまだいっておりません。ただし、協議は地元とも、市の課長も入って進めておりますので、御理解をいただきたいと思っております。

○議長（半田雄三君） 14番梶原議員。

○14番（梶原康嗣君） 部長、私個人ですが、ありがたい御意見も拝聴したなど、そんなふうに理解をいたしたいと思っておりますので、今後とも地元の方々、それから愛好者の方々とも十分話合いの場を設けていただいて、何度も言いますが、融合できるような取組をしていただいたならばありがたいな、そんなふうに強く思っておりますので、よろしく願いをしたい、かように思っております。

それから、次に入らせていただきたいと思っております。

4番目の項で、原鶴地区内の井戸水の水位低下、筑後川の土砂の堆積・今後のしゅんせつはどうなんだというようなことで、これは原鶴地区内の井戸水の水位の低下が、特に近頃になって井戸がれが出始めたということで、住民の方々は何とかしてくれんじやろうかと、これは井戸水がかれると、どこかに移らなごつなるやもしれんというような、非常に危機感を持つとるというようなことですが、これは部長も多分現場に行かれたんじゃないか

ろうかと思いますが、筑後川には土砂の堆積がパークゴルフ場、それからずっと泰泉閣さんを通り越えて、特養ホームのアンローゼまで、筑後川の4分の1はほとんどが土砂が堆積して、水も流れよらんと、筑後川の水が流れよるのは、筑後寄りのほうばかりに流れよるといようなことで、これは個人的な私の考えですが、そういったものも土砂の堆積によって水の道が変わったといようなことも要因の一つではないかな、私は、個人的には思っておりますが、いかがでしょうか。

○議長（半田雄三君） 都市建設部長。

○都市建設部長（山南哲也君） 筑後川の洪水後に、この本流に土砂が堆積しておりましたときに、原鶴地区内での井戸水の水位低下の声が寄せられておりまして、これはみお筋が変わったのではないかという問合せがありました。

国交省では、このような洪水時のみお筋の変化は、川の自然現象によるものであり、そのたびに何か工事を行うようなものではないというふうに判断をされております。

河川の流下断面が不足するような異常な堆砂状況を放置すれば、河川の流れを阻害して滞留をさせまして、洪水時の急激な水位上昇、それから氾濫の引き金というふうになったり、また取水施設の機能を阻害する要因にもなるというふうに考えております。

とりわけ原鶴地区では、鵜飼い漁、それから屋形船の運航や護岸への係留、こういったものに多大な支障が出ていることは承知をいたしております。

よって、調査、観察を行いながら、定期的にしゅんせつ、排土することが肝要だといふふうに考えております。平成29年7月、九州北部豪雨災害以降、各支川からの土砂流出が顕著であるために、河川管理者のほうに、これは国交省なんですけど、堆積土砂のしゅんせつ要望を行っております、部分的なしゅんせつが行われておりますが、災害土砂の流出は今後も続くものといふふうに考えておりまして、河川管理者に対してしゅんせつ等、適切な河川管理をこれからも求めていきます。

○議長（半田雄三君） 14番梶原議員。

○14番（梶原康嗣君） とにかく水道水といえますか、水は、やっぱり人間にとっては命に関わるような水でございますので、いろいろ市も今後支援策があるとすれば考えていただきたいなと強く思うものであります。

次は、時間がありませんが、温泉地での減災・防災の在り方について問いますが、私は、原鶴温泉地といえますと、お客さんを相手に安全な、安心な泊りをさせていただく、それが第一の条件だと思っておりますが、しかしながら、原鶴温泉地には市の上水道が通つとらんと、私もあちこち調査をいたしましたけど、特に観光地においては、ホテルとか旅館は、消防法でスプリンクラーとか屋内消火栓とか、そういったものが設置しておりますが、朝倉市には屋外の消火栓もない、防火水槽もない、ほとんどの観光地はそういった施設も十分に整えておるといようなことですが、もし有事の際には大変なことになると、しかしながら、近くに筑後川が流れておるといふことで、自然水利に任せた防火を行っておるん

じゃなかろうかと強く思いながら、懸念をもちしておりますが、私は、水道課長とは監査のときから何度となく、どげんかならんね、どげんかならんねというようなことで言い続けてきましたが、やはり費用対効果というようなことありましようが、物産館「バサロ」までは市の水道が来ると、しかしながら、原鶴大橋の導水管を通すだけでも3億円からの費用がかかるということで、その原鶴地域のこれは熱意、総意、そういったものも十分考えてもらわんといかんですねというようなことで、まさしく私は、これは費用対効果たいなど、単刀直入に言わせていただきましたが、しかしながら、防火からの意味を言いますと、やはり温泉地には屋外消火栓、防火水槽の設置、これは必ず必要じゃないかなと思っておりますが、これは総務部長が回答するというようなことになっておりますので、総務部長どんなふうでしょうか。

○議長（半田雄三君） 総務部長。

○総務部長（森山浩二君） 現在、原鶴地区内には防火水槽が2基あり、有事の際は筑後川や地区内を流れます水路なども水利と利用して活用しておりますが、土砂の堆積などによって取水が困難な場合が懸念されますので、消防水利施設への設置の必要性が高いと認識をしております。

消防水利施設としては、消火栓や防火水槽が考えられますが、原鶴地区内については、議員申されましたとおり、水道施設が整備されておられません。

消火栓の設置につきましては難しく、防火水槽の設置が望ましいと考えております。防火水槽の設置については、地区から設置する土地を御提供いただいて、市のほうで工事を行う仕組みとなっておりますので、ぜひとも地区で防火水槽設置に向けた御検討をいただきたいと考えております。

なお、候補地の選定に当たっては、既存の防火水槽からの距離や設置可能な用地面積などの要件がありますので、まずは防災交通課のほうに御相談のほうをいただきたいと思えます。

○議長（半田雄三君） 14番梶原議員。

○14番（梶原康嗣君） いよいよ時間がなくなりました。まだまだお尋ねしたいことがいっぱいあるなということですが、補助金のことも議題に上げておりましたが、これは取りやめたいと思えます。

最後になりましたが、市長にも、1分しかない、そういった中で、端的に、今まで温泉地原鶴の大きな問題を議論、討議、質問をしてまいりましたが、そういった質問をする中で、最後に市長のこういったことをやりたい、こういったことはちょっと考えさせてくれということがあると思えますので、端的に今までの質問に対して市長の考えを聞きたいと思えますので、あと1分、よろしくお願ひします。

○議長（半田雄三君） 市長。

○市長（林 裕二君） いろいろと原鶴地域を中心とした諸課題について御意見をいただ

いたところでございます。まさしく朝倉市にとりまして、原鶴地域は市を代表する観光産業の拠点でございます。

そしてまた、いろいろと課題の指摘をされた中身については、私もよく知っておりまして、過去からの経緯も知っている部分が非常に多いということでございます。しっかりと、今、地元の皆様方と協議をしたり、市で対応しておりますので、頑張っていきたいと思えます。

○議長（半田雄三君） 14番梶原康嗣議員の質問は終わりました。

暫時休憩いたします。11時10分に再開いたします。

午前11時零分休憩